

農林水産・建設委員長報告

(下田利春委員長)

議案2件を原案可決、認定3件を認定

【議案第81号】南島原市農業委員会委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の制定について

質疑 名前も制度も変わり、仕事のにはどのように変わるのか。

答弁 農地等の利用最適化推進が義務となり、その業務が増えるので推進委員を投入しカバーする。

質疑 農業委員が19名に減る。区割りはどうなるのか。旧町に最低1人は必要では。

答弁 地域別指定はないが、各地域等から推薦・公募して頂き選任することになっている。

【議案第83号】平成29年度南島原市一般会計補正予算(第2号)

質疑 アナグマ捕獲報償金が大幅に増えている。捕獲数と増額の根拠は。

答弁 7月までに70頭

を捕獲、既に当初予算では足りない状況である。

質疑 今回の災害復旧の契約は11月・12月になると思う。不落等で繰り越しになることもあるが、対応はどうするのか。

答弁 入札方法も随契約の方向で検討段階である。不落随契ができることが自治法施行令にあるので、契約が早めに行えるよう検討しており、繰越がなないように頑張っていく。

質疑 アナグマも関係自治体と協力し強く補助等を要望して頂きたい。随契は先進地の随契要綱を参考に、工事が早く進むよう取り組むべきだが。

答弁 そのような方向で頑張りたい。

【認定第3号】平成28年度南島原市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

質疑 一般会計からの繰入金、前回10億2,700

0万円程度、今回は公債費と同額の9億2,600万円、何を根拠に繰り入れか。

答弁 公債費は基準内と基準外の繰入があるが、不足のときは基準外として繰り入れ。今回28年度繰上償還が含まれており、実質繰入金は3億5,600万円程度である。

質疑 繰越明許不用額の原因は何か。

答弁 27年度からの工事費全額の繰り越し分、工事費の執行残である。

【認定第4号】平成28年度南島原市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

質疑 下水道工事が終わると繰入金が減るのか。

答弁 借入も据置期間があり、今後償還が大きくなる部分もあり、工事負担金が無くなっても繰入金は変わらないと考える。

☆その他の付託案件

【認定第6号】平成28年度南島原市水道事業会計決算の認定について

総務委員会視察研修報告

平成29年7月5日(水)～7日(金)

静岡県藤枝市・神奈川

県藤枝市を視察、研修

《藤枝市では、「6次産業化推進ネットワーク事業の具体的な取り組みについて」研修》

藤枝市、農協、商工会、

商工会議所が平成23年に

「藤枝市農商工連携・6次産業化推進ネットワーク事業」を設立、会員数15会員

《目的》

○農産物の需要の拡大と産業の振興を図る

○新たな商品、サービス、販路ブランドを創出など

《その結果「市民としての効果として」

18の商品を採択し販売。中には、ふるさと納税の返礼品になっている物もある。

《地域経済における効果として》

農業者の高齢化、担い手不足による、耕作放棄地が増えるなかで、耕作放棄地を利用した酒米の原料となる、米を植え付ける農家が増加し作付け

面積も倍増している。

藤枝市は、商品の開発、販売、広報に係る調査・分析に補助金を出し、農産物の需要拡大、産業の振興を図る取り組みを行っている。

《藤枝市では、「シティプロモーション事業の取り組みについて」研修》

藤枝市では都市の魅力やイメージを効果的、継続的にアピールし、ブランド価値を高め、発展させていく取り組みを行っている。

《その結果「市民としての効果として」

藤枝市の魅力や価値を大切に思い、高める気持ちが生まれ、郷土愛が高まる。

《地域経済における効果として》

知名度向上により、地元産業への信頼感が高まり収益の向上がもたらされた。

《藤枝市にとつての効果として》

交流・定住人口の増加や、商店街の活性化、市税収入の増加に繋がった。

藤枝市では市民を取り込んだ活動を展開し、民間事業者と連携している。南島原市の場合も市民と一緒に進めた事業の展開をいかに行うかが成功の鍵になるものと思う。

今回の研修では、南島原市においても参考にすべき点があったので、今後の取り組みに活かしていきたい。



研修の様子